



# 関西医科大学 広報

*Kansai Medical University Public Relations*



## 建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

## 国際交流

## 明日に架ける橋



米国バーモント大学と学術協定

国際交流をさらに発展させよう。本学と米国バーモント大学との大学間学術交流協定調印式が9月に行われました。本学は、今後とも医学生や教員・研究者の相互派遣を推進し、明日につながる国際的な視野を持った優秀な人材育成を推進します。＝写真は、バーモント大学Morin医学部長と握手を交わす山下学長（右）

2・3面に関連記事

## CONTENTS

国外臨床実習の歴史と展望	2	卒後臨床研修センター	14
法人 枚方新学舎整備の準備作業 着々	3	附属看護専門学校	15
大学 オープンキャンパス	6	大学情報センター	16
産学連携	6	キャンパス ニュース	17
学事	8	同窓会	18
病院	9	メディア情報	19

## 国際化推進委員会 広い視野を持った医師を育成

9月18日(土)午前11時から附属枚方病院13階合同カンファレンスルームにおいて本学と米国バーモント大学との大学間学術交流協定書調印式が行われました。調印式には、バーモント大学の Frederick C.Morin,III 医学部長、同大学 Masatoshi Kida 臨床病理学教授らが協定締結のため来学、本学からは山下敏夫学長、藺田精昭専門部教務部長、友田幸一耳鼻咽喉科学講座教授が出席、バーモント大学Morin医学部長と山下学長により署名が行われ、両大学間の架け橋が実現しました。会場となった附属枚方病院玄関には、星条旗、日本国旗、本学の校旗が掲揚され、バーモントの一行を歓迎、式終了後には、昼食会で親睦を深めました。

### 「国外臨床実習の歴史と展望—国際化を見据えて」

本学は、今、近い将来の国際交流の発展を願って様々な取り組みを行っています。その担い手として、昨年、学長アドホック委員会として「国際化推進委員会」が発足しました。本委員会の具体的な活動成果として、国外臨床実習施設の充実が挙げられます。本学では、医学生に海外での臨床実習経験を積ませることで国際的な広い視野をもった医師を育てることを目的として、平成16年度に初めて3名の学生をカナダのトロント小児病院と米国のニューヨーク医科大学に派遣しています。平成18年度以降は、毎年、マレーシア国立循環器病センター及びドイツレーパーターゼン総合病院に各々2名の医学生を派遣して来ました。最近、学生から米国での臨床実習の強い希望が寄せられるようになったことから、国際化推進委員会のメンバーが中心となって尽力した結果、平成22年度から米国の3大学(コロンビア大学、バーモント大学、及びスタンフォード大学)に学生を派遣できるようになっています。来年度からは、マレーシア、ドイツに加えて、米国3大学(コロンビア大学、バーモント大学、及びカリフォルニア大学)、トロント小児病院の合計6施設に最大11名の学生を派遣できることになりました。これに合わせて学生の選抜方法を、日常英会話だけでなく医学知識を英語で正確に理解・表現できるかに重点を置いたものに一新しています。昨年11月に実施した試験には21名の学生が応募(派遣数9名)、今年10月に実施した試験でも12名(派遣数11名)の学生が応募しています。

今後の国際交流には、医学生の派遣だけでなく、海外の医学生の受け入れ、さらに、教員、研究者の相互交流が含まれています。そうした基盤整備のためには、大学間協定の調印が不可欠になります。先陣を切って、本年9月18日にバーモント大学のMorin医学部長ご夫妻が本学を訪問され、山下学長との間で正式な大学間協定の調印式が行われました。調印式には、バーモント大学のKida教授ご夫妻、国際化推進委員会の友田教授、高井部長と藺田(教務部長)が出席し、終始和やかな雰囲気で行われました。当日は素晴らしい天気恵まれて、枚方病院の13階合同カンファレンスルームからはまばゆい景色を堪能することができ、今後の両大学間の実りある交流を祝福しているかのようでありました。

専門部教務部長・衛生学講座教授 藺田 精昭

本学では、平成25年4月の新学舎竣工に向けて、医学生に対する医学英語教育の充実、TOEIC試験の導入、国際交流センターの開設など、更なる国際化に取り組んでいます。併せて、平成6年に設立されたIFS(関西医科大学国際交流協会)が活発な活動を行っており、近い将来に国際交流センターを中心として本学の国際化を支えていくものと期待されています。



バーモント大学医学部長夫妻らと記念撮影する山下学長、藺田教務部長ら

#### バーモントとは ラテン語で「緑豊かな」

英語: University of Vermont、正式には University of Vermont and State Agricultural College、略称 UVM)は、バーモント州バーリントン市にキャンパスを置く州立大学。ノーベル賞受賞者、ピューリッツァー賞受賞者などを輩出している。

1791年に創立され、ニューイングランドでは、5番目に長い歴史のある大学である。バーモント州最大都市であるバーリントン市に位置する。バーモントがラテン語で「緑豊かな」という意味を持つ通り、キャンパスは周辺にはシャンプラン湖やアディロンダックとグリーン山脈があり、非常に緑に囲まれた大学である。学生数は約12,000人で、州立大学の中では小規模だが、幅広い学科を備えている。そのため、リベラル・アーツ・カレッジのような雰囲気味わうことが出来る。200年以上の歴史を持つ建築物も多く、米国歴史遺産登録のリストに掲載されている建物も少なくない。パブリック・アイビーに数えられることもあるなど、研究分野においても定評のある大学の一つである。スキー氏の著書「Best Buys in College Education」では、同大学のあるバーリントン市は10大学園都市に挙げられている。(Wikipediaより)

## 来年度 本学の国外臨床実習施設の位置図



### 写真で見る 進捗状況

## 着々進む「枚方新学舎整備」の準備作業

平成25年春にオープン予定の枚方キャンパス統合移転整備事業の前段階工事がいよいよスタートしました。教養部グラウンド設置工事、枚方病院の仮設駐車場工事は既に終わり使用を開始、今までの駐車場を解体し新たに造る立体駐車場棟新築整備工事は始まったばかりで、来年1月には、完成する運びです。

#### ◆教養部グラウンド設置工事

工 期：平成22年7月20日～平成22年10月15日  
 工事内容：グラウンド工事、備品関係移設、雨水排水工事、旧有恒館跡地への芝貼り工事、私設消火栓撤去、水平ネット移設、地中障害撤去等

グラウンド面積：約6,820㎡（防球ネット内のみ）

#### ◆枚方グラウンドの仮設駐車場整備

工 期：平成22年9月1日～平成22年9月17日  
 工事内容：バイク置場整備、進入路・ライン整備



使用開始している教養部グラウンド

#### ◆枚方病院立体駐車場棟整備

工 期：平成22年9月21日～平成23年1月31日  
 使用開始：平成23年2月1日（予定）  
 概 要：新築、3層4段、500台収容



枚方グラウンドの仮設駐車場



枚方病院立体駐車場の建築現場

# 長期資金収支計画の改訂について

財務担当理事・経営企画室長 岩坂 壽二

長期資金収支計画について改訂作業を行い、財団法人大学基準協会に提出しましたので、その概要をお知らせします。この長期資金収支計画は、新理事長山下敏夫先生の強い牽引、細やかな施策のもと描かれる本学の経営目標と将来構想を数字で示したものです。そして、過年度実績や情勢変化に応じて、毎年見直しています。今回は平成22年度予算を基に診療報酬改定による影響・効果を予想して医療収入と医療経費に反映させ、新学舎建設資金計画の所要資金と資金調達を固めて計画に織り込みました。

本学は“アクション2015行動する関西医大”“ジャンプ2020飛躍する関西医大”という行動目標を掲げ、このスローガンのもと全教職員が一致団結して日々の業務に取り組んでいます。本年度はアクション2015に掲げた香里病院の開院及び滝井病院の改編が計画通り遂行され、学舎の枚方キャンパスへの移転準備が順調に進んでいます。今後本学がどのような姿に生まれ変わるのか、現在の帰属収支差額の水準を維持した場合に5年後、10年後の姿はどうなっているのか等、この長期

資金収支計画を通してご覧いただけたと思います。

ここ2年間、本学はそれまでの赤字体質から脱却し6億円、10億円の帰属収支黒字を達成しました。これを一過性のものに終わらせることなく、将来に亘って黒字基調を維持していくことが、医学界において先導的役割を担っていく本学に課せられた使命であり、社会貢献に欠かせない条件だと考えています。

今回の長期資金収支計画では、本学は毎年15億円以上の帰属収支黒字を達成し、10年後には実質無借金経営になることを見込んでいます。これは、決して簡単な目標ではありませんが、本学が新しい関西医大に生まれ変わるためには、成し遂げるべき最低限度の目標であると考えています。この長期資金収支計画を念頭に置いて日々の業務に励み、常に“不要不急”の戒めを忘れず、努力の積み上げにより成される夢に溢れた来年度の予算作成に取り組んでいただきたい。そして、本学がこの計画通りに歩んでいけるよう皆様の一層のご理解とご協力をお願い致します。

## 長期資金収支計画

(単位 百万円)

	2009年度 実績	2010年度 計画	2011年度 計画	2012年度 計画	2013年度 計画	2014年度 計画	2015年度 計画	2016年度 計画	2017年度 計画	2018年度 計画	
帰属収入	学生納付金	3,434	3,515	3,430	3,474	3,490	3,522	3,490	3,526	3,518	
	寄付金・補助金	2,626	5,691	2,688	2,688	3,388	2,588	2,588	2,588	2,588	
	医療収入	35,330	39,892	41,206	41,336	41,359	41,240	41,268	41,083	41,083	
	その他	2,792	1,430	1,159	1,162	1,854	1,137	1,137	1,137	1,137	
	帰属収入計(a)	44,182	50,528	48,483	48,660	50,091	48,487	48,483	48,334	48,326	48,326
消費支出	人件費	21,177	21,987	22,317	22,418	22,502	22,579	22,670	22,747	22,824	22,901
	教育研究管理経費	7,167	8,559	8,304	8,311	8,314	8,316	8,319	8,322	8,324	8,324
	医療経費	10,577	11,163	11,471	11,564	11,572	11,594	11,602	11,602	11,602	11,602
	その他	4,288	4,366	4,519	4,635	4,487	4,040	4,057	4,032	3,959	3,778
	消費支出計(b)	43,209	46,075	46,611	46,928	46,875	46,529	46,648	46,703	46,709	46,605
帰属収支差額(a-b)	973	4,453	1,872	1,732	3,216	1,957	1,835	1,631	1,617	1,721	
帰属収支比率(a-b)/a	2.2%	8.8%	3.9%	3.6%	6.4%	4.0%	3.8%	3.4%	3.3%	3.6%	

(注)帰属収支差額のみ抜粋。百万円未満四捨五入にて計上。なお、2010年度は香里病院建設補助金、2013年度は枚方学舎建設寄付金・補助金および資産処分益を含む。

## 法 人

### 短時間勤務 正職員制度

## 復職支援、枚方で7名の女性医師が制度利用

出産のため一旦、医療現場を離れた女性医師の復職を支援します。本学では、全国の私立医大でも先駆けとなる短時間勤務正職員制度を導入、今年の6月からは、実際に附属枚方病院の臨床現場で7名の女性医師が働いています。

女性医師が「育児をしながら復職を」と望んでも、高度医療機関では長時間勤務などが付き物とあって、出産を機にやむなく退職する医師は多く、復帰の場も限られていました。本学では、年々増え続ける女性医師が育児と仕事を両立できる仕組みづくりが何とかできないものかと、検討を重ねていましたが、この4月に

「育児及び介護を行う女性医師」に適用する短時間勤務正職員に関する内規を制定し、本格運用に向け、復職の意思のある退職女性医師らに制度の趣旨を理解してもらうよう努めていました。

そして、6月1日が第1号となる附属枚方病院心療内科、皮膚科の女性医師を皮切りに、現在、産婦人科、泌尿器科、総合診療科、形成外科、放射線科に各1名、合計7名の医師が臨床現場で活躍しています。いずれの方も附属枚方病院の正職員です。

多様な勤務形態がある事により、「選ばれる職場」となって医師不足の解消にも貢献すると思われます。

## 平成22年度寄付金募集中です！ 本学(特定公益増進法人)への寄付は税制上優遇措置の対象です

### 〈優遇措置の内容〉～個人寄付者の場合～

寄付金控除として、次の算出額がその年の課税対象所得から控除されます。

寄付金額 (年間所得額の40%が限度)	－	2,000円	=	寄付金控除額
------------------------	---	--------	---	--------

### ◎今年ご寄付をいただきました方

来年の確定申告期間に、本学から送付致しました①寄付金受領書、②特定公益増進法人証明書(写)を確定申告書類に添付して所得税還付の手続きを行って下さい。

### ◎ご寄付をお考えいただいている方

今年の所得で寄付金控除を受けられたい場合は、今年12月末までにご寄付をいただきますようご検討をお願いします。

※法人でのご寄付にも税制上の優遇措置があります。受配者指定寄付金制度を利用すれば、寄付金全額が損金に算入されます。詳細は次号でご案内いたします。

※詳しくは、関西医科大学募金室(TEL 06-6993-9556)までお問い合わせ下さい。ホームページURL  
<http://www2.kmu.ac.jp/bokin/>

### 特定公益増進法人とは

教育または科学の振興、文化の向上、社会福祉の貢献その他公益の増進に著しく寄与する法人。

特定公益増進法人に対する寄付金は寄付金控除等の税制上優遇措置の対象とされています。

## 寄 付 金

施設設備整備拡充事業資金へご寄付いただきました方々のご芳名を掲載して感謝の意を表します。平成22年8～9月分(11月1日現在)

〈個人〉

黄 俊清 様                      長峯 清英 様  
榊 徳子 様

〈法人〉

ケーエムユーシステム株式会社

## 大学ロゴ オリジナルグッズ イメージキャラクター 募集しています

あなたのアイデアを大学発展に役立てませんか。大学ロゴマークデザイン、オリジナルグッズ、イメージキャラクターなど皆様からのアイデアお待ちしております。

本学の教職員が、本学に愛着と誇りを感じ、本学教職員であることの自覚をもつとともに、地域の皆様に、より親しみを感じていただけるよう、学生、教職員、卒業生ら広く本学関係者に、大学ロゴマーク、襟章マーク、オリジナルグッズ、その他イメージキャラクター、シンボルマーク等のアイデアを募集しています。アイデアは、創立80余年の本学の特色をアピールするもので、ロゴやグッズ、キャラクター等作成時のモチーフや参考となるものが望まれます。

なお、オリジナルグッズは、例えば学外からのお客様にも記念品としてお渡しできるような物で、携帯スト

ラップ、カードケース、クリアファイル、手提げバックのようなものを想定しています。募集期限は、今年いっぱいです。応募の提出先、募集するものの詳細は、次のとおりです。

1. 募集期間：平成22年9月27日(月)～12月28日(火)
2. 提出先：大学事務局総務部庶務課  
(E-mail : kansaig@takii.kmu.ac.jp)
3. 照会先：大学事務局総務部庶務課(81・2112)  
学部事務局学務課(81・2231)
4. 募集するもの：
  - 1) ロゴマーク デザイン
  - 2) 襟章マーク デザイン
  - 3) オリジナルグッズ 品物
  - 4) イメージキャラクター デザイン
  - 5) シンボルマーク デザイン
  - 6) その他

## 大 学

オープン  
キャンパス

## 枚方病院で施設見学や受験相談

平成22年度オープンキャンパスは、8月7日(土)と9月4日(土)の2回、附属枚方病院を会場に開催されました。両日共、快晴で天候にも恵まれ、参加した受験生や保護者らは院内から望む淀川の流れのゆったり悠然とした風景に心なやましていました。

プログラムは、午後1時から、山下敏夫学長の挨拶、藪田精昭専門部教務部長のレクチャー「関西医科大学のキャンパスライフ」、藤井茂入試センター長の入試概要説明が行われた後、午後2時から施設見学及び教職員・在学生による受験相談や学生生活相談といった個別相談会が実施されました。

今年度の院内施設見学では、手術部・総合周産期母子医療センター等、普段受験生が目に来ないような部署をコースに組み入れ、健康科学センターでは一部体験コーナーを設けました。

全体説明終了後の13階講堂では、本学創立80周年記念ビデオ・附属枚方病院紹介ビデオを上映し、レストラン「のぞみ」では、午後2時からフリードリンクコーナーを設けました。

## 〈参加者〉

8月7日(土) 134名(受験生69名・保護者65名)

9月4日(土) 92名(受験生37名・保護者55名)



オペ室前室でモニターに見入る見学者



健康科学センターでは実際に機器を使って体力測定

## 産 学 連 携

## 「イノベーションジャパン2010」外科学・医化学講座の共同発明を出展

東京国際フォーラムにおいて「イノベーション・ジャパン2010-大学見本市」が9月29日(水)～10月1日(金)に開催され、本年の総入場者数は17,000余人を数えました。

本学は外科学講座の権雅憲教授、海堀昌樹講師、荒木吉朗大学院生と医化学講座・伊藤誠二教授、松村伸治講師が発明した「手術後の痛みがとれる埋込み式持続性鎮痛ゲル」(特許出願中)を出展しました。

本発明は、外科手術において、術後創を縫合する前に架橋ゼラチンシートに局所麻酔を浸透させて作製した鎮痛ゲルを皮下に埋込むことにより、術後、鎮静効果が約1週間にわたり持続するというものです。期間中は、製薬会社、医療機器メーカー等、多数の企業の訪問を受けました。幾つかの企業から社内で検討したいとの言葉をいただき、また日本経済新聞社からも取材を受けました。後日、某企業が来学され、事業化について検討したいとの申し出がありました。今後、これらの企業との共同研究により、同技術の更なる進歩が

期待されるところです。

会場を見渡せば、どの大学のブースも出展者に質問する姿が見受けられ、大学に潜在する技術を知ろうとする熱気に溢れていました。「来年もまた本学の研究者と共にこの充実感を味わいたい」とは産学連携知的財産統括課関係者の弁。



会場を訪れた海堀講師(左)と荒木大学院生

## 大 学

オープンキャンパス アンケート集計結果 **開催時期もプログラムも「ちょうど良い」**

オープンキャンパスで「良かった」と答えたのは、施設見学81名(29.5%)が最も多く、入試概要説明61名(22.2%)、レクチャー45名(16.4%)と続いています。開催時期・日程については、「良かった」が84.9%を占めました。これは、入試センターがまとめた平成22年度オープンキャンパス・アンケート集計結果です。日時・参加者数は前述のオープンキャンパスの記事のとおりです。アンケートは、2日間で204名に配布、126名の回答があり、回収率は57.72%でした。

参加者の出身高校地域別(グラフ1)をみると当然のことながら近畿地区92名の(86.8%)と最も多く、昨年よりさらに8.4%増えています。府県の内訳は、大阪47名、京都17名、兵庫15名、奈良10名、滋賀2名、和歌山1名の順となっています。次いで中部地区5名(4.7%)、四国地区3名(2.8%)、中国地区3名(2.8%)、東北地区及び関東地区が各1名です。

問. 1 「今回のオープンキャンパスでよかったのはどれですか(複数回答可)」は、レクチャー、入試概要説明会、ビデオ放映、個別相談、施設見学、NICU見学(希望者のみ)、その他から選択。(グラフ2)

施設見学29.5%、入試概要説明22.2%の2つがいずれも2割を越え、次いでレクチャー16.4%、NICU見学(希望者のみ)12.0%、個別相談10.9%、ビデオ放映7.3%でした。

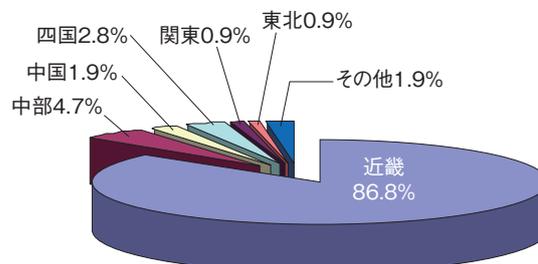
問. 2 「全体の内容や開催時期・日程についてお聞かせください」(グラフ3)

全体の内容では、「良かった」107名(84.9%)で昨年より9%もアップしています。普通17名13.5%、良くなかった1名0.8%、無回答0.8%でした。

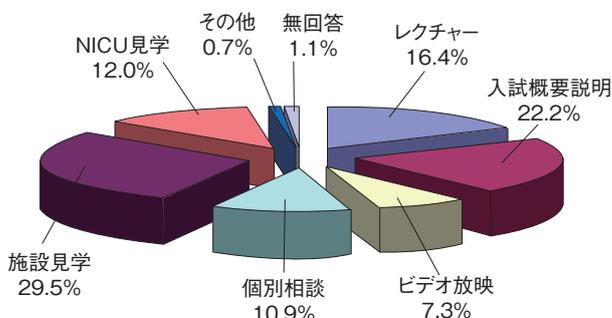
開催時期と日程を個別に見ると開催時期では「ちょうど良い」が84.1%と圧倒的に多く、もっと早く11.9%、もっと遅く4.0%であり、開催時期は、夏休みを利用したこの時期が適当と思われる。

日程(時間的なこと)は、ちょうど良い92.8%、長い4.8%、短い0.8%、無回答1.6%の結果でした。

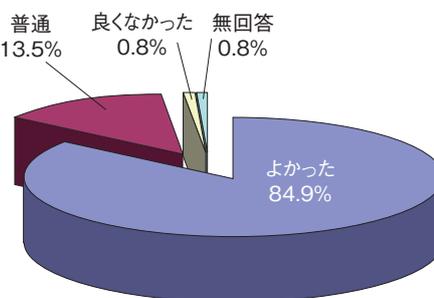
グラフ1 出身高校地域別



グラフ2 オープンキャンパスで良かったのは



グラフ3 全体内容



## 第127回学内学術集談会 演題を募集中

第127回学内学術集談会は、平成23年3月18日(金)午後1時から附属枚方病院13階講堂で開催することになりました。つきましては、演題を募集します。テーマは自由。是非多くの方にご応募いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。詳細は、下記のとおり。

## 記

- 日時：平成23年3月18日(金)午後1時～
- 場所：附属枚方病院13階講堂
- 応募方法：演題、発表者名(演者に○印)、所属をご明記の上、演題を含め400字以内の抄録(word

ファイル)をE-mailにて提出して下さい。

Macをご利用の方は念の為にテキストファイルも一緒にご提出下さい。

- 提出方法：E-mail 添付
- 提出先：胸部心臓血管外科学講座  
秘書 尾田陽子(kmutcvsl@takii.kmu.ac.jp)
- 締切：平成23年1月15日(土)
- 問合せ先：胸部心臓血管外科学講座
- 担当者：尾田【内線：枚方(80)3116】  
第127回関西医科大学学内学術集談会  
世話係 胸部心臓血管外科学講座  
湊 直樹

## 学 事

## 第36回実験動物慰霊祭 医学研究に捧げた動物の御霊に感謝の念

慰霊の言葉を捧げる藤澤施設長



第36回実験動物慰霊祭が10月20日(水)午後1時から専門部学舎2号館南棟遺伝子治療室において、山下敏夫学長、伊藤誠二副学長、木梨達雄附属生命医学研究所所長、藤澤順一実験動物飼育共同施設長ら関係の教職員約120名が参列のもと、無宗教形式で行われました。

1分間の黙祷の後、藤澤施設長から慰霊の言葉が捧げられ、引き続き、医学研究のため尊い犠牲となった動物の御霊に対し、参列者全員が献花を行い、感謝の念を捧げるとともに冥福を祈りました。

## 解剖体慰霊碑供養 建仁寺塔頭永源院で学長、白菊会会長ら参列

平成22年度の解剖体慰霊碑供養は、10月22日(金)午前11時から京都臨濟宗本山建仁寺塔頭正伝永源院内の本学解剖体慰霊碑前において、山下敏夫学長、徳永力雄常務理事、平野利夫白菊会会長はじめ関係教授らが参列のもと、新仏の入魂ならびに供養の儀を行いました。



学長ら関係者が墓前で供養

iPS細胞研究の進展と題し  
山中教授が本学で初講義

2年生を対象にした医学概論の講義として京都大学・山中伸弥教授(iPS細胞研究所長、本学客員教授)が9月30日(木)専門部学舎第一講堂で「iPS細胞研究の進展」と題して講演されました。

講義のなかで、山中教授は大学院で初めて取り組んだ実験の結果が、後のiPS細胞作製につながったことなどをユーモアを織り交ぜながら語られ、学生らは、山中教授が本学で講義するのは初めてとあって、真剣に興味深く聞き入っていました。

なお、山中教授は、このほど今年度の文化功労者に選ばれました。



講義する山中教授

## 来年度前期大学院博士課程入試を実施

## 後期試験は2月19日、定員41名

平成23年度前期大学院博士課程入学試験は、9月18日(土)専門部学舎において午前9時30分から正午まで外国語試験、午後から専攻別授業科目試験を実施しました。

受験者数は9名、同時に行った論文博士語学試験には5名が受験しました。合格者は、大学院博士課程入学試験9名、論文博士語学試験5名でした。

後期試験は、平成23年2月19日(土)に実施、募集定員は41名。願書受付期間は1月11日(火)から2月4日(金)まで。

## 平成22年度慈仁会全国懇談会

## 牧野と滝井で389名の保護者が参加

平成22年度慈仁会全国懇談会は、10月17日(日)午前11時から牧野キャンパスで1学年保護者99名、滝井キャンパスで2~6学年保護者290名が参加して開催された。

クラスアドバイザー教員とのクラス別懇談会、個別懇談会を中心に、学内の図書館、チュートリアルルームの見学も行われ、午後5時前に総て無事終了しました。

## 病 院

## 医師会便り

## 関西医大医師会への入会をお勧めします

## 枚方市医師会と初、地区医師会と相次ぎ懇談会

恒例となっている関西医科大学医師会と地区の3医師会との懇談会が、月に1回の割合で開催されていますが、9月4日(土)には守口市医師会と、10月2日(土)には門真市医師会と、今月20日(土)には寝屋川市医師会との間で懇談会が開かれ、これが今年最後の会となりました。本年は、枚方市医師会との第1回目の懇談会が6月5日(土)に関西医科大学香里病院の竣工式及び内覧会の後に附属枚方病院で開催されました。これら各懇談会への両医師会からの参加者総数は各々、枚方市医師会：95名、守口市医師会：91名、門真市医師会：85名、寝屋川市医師会：99名(予定)でした。

日常の診療において、患者さんに最良の医療を提供するためには緊密な病診連携が必須であり、地区医師会の先生方との顔の見える連携を構築するためにも地区医師会との懇談会は大きな意義があります。多くの

先生方に地区医師会との懇談会にご出席いただき、感謝しています。

さて、関西医科大学医師会の会員数は10月現在で377名ですが、まだ未入会の先生も多くおられます。各附属の3病院で働いている医師の医師会入会率は、枚方病院：46.6%、滝井病院：71.1%、香里病院：39.5%です。医療訴訟も急増しており、訴訟の対象が病院のみならず医師個人を対象とされる場合が多くなっています。医師会入会者にはこの医療訴訟において、医師会からの親身で手厚い支援がなされます。この点が各種学会などの医療訴訟用の保険とは全く異なっており、勤務医であるからこそ医師会に入会することの大きな意義と必要性があります。是非とも未入会の先生方が全員、本学医師会に早く入会されますことを強くお勧めいたします。

## 附属枚方病院

## 「からだところのつきあい方」

## 瀬戸内寂聴さんが特別講演

10月20日(水)午後5時30分から附属枚方病院13階講堂及び合同カンファレンスルームにおいて、瀬戸内寂聴さんの特別講演会「からだところのつきあい方」をテーマに開催され、看護師を中心に約240名もの病院職員が傍聴、会場は満員の盛況となりました。

講演では、僧侶でありながら、作家としても活躍する寂聴さんの波乱万丈な人生を、ユーモアとやさしさがにじみ出る言葉で語られ、88歳のご高齢とは思えないお元気さでした。



ユーモアもいっぱい寂聴さんの講演会

## 「健康ハートで働こう」市民公開講座に多くの市民



総合司会の大寿会病院理事・篠山先生と岩坂教授(右)

9月26日(日)午後12時30分から、日本心臓財団、大寿会病院、当院の主催により、附属枚方病院13階講堂で「健康ハートで働こう」をテーマに市民公開講座が開催され、多くの市民の方が参加しました。

今村洋二病院長の挨拶の後、心療内科の福永幹彦教授から「ストレスが襲う心臓病」をテーマに、医師、ピアニスト、アイススケーターと様々な顔を持つ坂東浩先生からは「音楽で心を癒そう - 生活習慣病と音楽療法」をテーマにキーボードで実際に音楽を奏でながらのユニークな講演がありました。

さらに第2内科の岩坂潤二助教による「メタボと闘い、心臓病リスクをへらそう」、京都大学呼吸管理睡眠制御学講座の陳和夫教授による「快眠は健康のもと」と心臓疾患に関する様々な内容の話があり、参加された皆さんも熱心に聴講されていました。

## 病 院

## 附属枚方病院

市民公開講座(看護部企画)を開催

## ニーズにぴったり、好評の体験学習

10月2日(土)気候にも恵まれた午後2時から、附属枚方病院13階講堂において、看護部企画による市民公開講座が開催されました。今回のテーマは「家庭で出来る応急処置」として熱中症・やけど・誤嚥の初期対応についての話でした。

講師は救急看護認定看護師の徳山博美副師長で、60数名の参加がありました。参加された皆さんは熱心にメモを取ったり、質問をされていました。

講演の後、合同カンファレンスルームに準備した「ハイキングや山歩きで気をつけたいこと」「女性の失禁予防・相談コーナー」「AEDの使い方、心臓マッサージの体験コーナー」の展示ブースにほとんどの皆さんが訪れられ、相談をして安心して帰られる方、元気な老人が心臓マッサージを体験して満足げに帰られる姿もありました。今回のテーマは市民のニーズにピッタリ合ったという手ごたえがありました。「このような講演会をいっぱいしてほしい」という反応が多くあり、市民の健康意識の高さを再認識しました。



実際に心臓マッサージを体験



韓国保健医療労働組合代表団が病院見学

## 医療事情や病院運用など熱心な質問

8月31日(火)午後1時から、韓国保健医療労働組合「私立大学病院代表団」10名の皆さんによる病院見学と懇談会が開催されました。

これは日本医療労働組合連合会から本学の労働組合を通じて申し入れがあり、実現したのですが、今村洋二病院長の挨拶の他、竹林俊雄総務部長、安田照美看護部長から枚方病院の運用や看護体制などが説明されました。引き続き院内の見学を行いました。参加した皆さんからは日本の医療事情や枚方病院の運用など熱心な質問が飛び交い、日韓の友好を深めた見学会となりました。

=写真は、どの部門でもメモを取りながらの熱心な見学(リハビリセンターにて)

震度7の地震が発生し病棟被災の想定

## 総勢400名、最大規模の災害訓練

10月16日(土)に附属枚方病院において第4回となる災害訓練が実施されました。今年の訓練では、病院の緊急医療チーム(DMAT隊4名)が出動要請を受け災害現場に駆けつけました。また、枚方寝屋川消防組合との合同訓練として、100名を超える消防隊員と14台の車両が出動しました。訓練に合わせて、今年も枚方市赤十字奉仕団の皆さんによる炊き出し訓練も実施され、参加スタッフ、ボランティアを合わせると総勢400名以上の参加者となる大規模なものとなりました。

午前10時に東南海・南海地震により枚方市でも震度7の地震が発生し、病院内でも一部の病棟が被災を受け、近隣のメセナ枚方の一部が倒壊し、セミナー参加者に多数の負傷者が発生したとの想定。研修棟の建物をメセナ枚方に見立て、救急隊による救出訓練がスタートし、救出から1次トリアージ、搬送の後、院内の災害訓練が開始されました。参加したボランティア及びスタッフは本番さながら真剣に取り組み、昨年以上に充実した訓練となり、枚方寝屋川消防組合の窪田浩救急課長からも訓練全般にわたり高評を得ました。



消防隊員もトリアージに参加

## 病 院

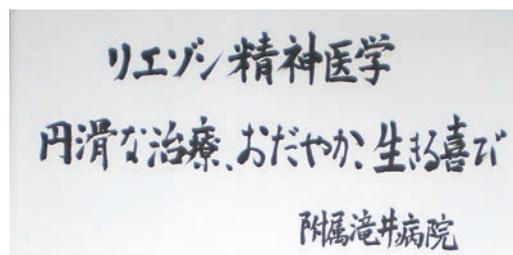
## 附属滝井病院

## 当院におけるリエゾン精神医学の展開

病院長 岩坂 壽二

附属滝井病院救命救急センターを病院長回診させていただいた時です。私の目には自殺を企てるようには思えない方がベッドに座っていた。精神科から派遣されている若い医師に質問した。「どんな指導をしたのですか?」、彼は「約束しました。もう自殺はしないことを。」と、私に忘れていた言葉を思い出させてくれました。現在の医療で、医療スタッフが患者さんに約束することは少ないと思います。ましてや、患者さんが我々に約束してくれることも少ない。契約、確約、保障でもない危うい言葉“約束”が今の患者さんとの時々ほころびを見せる関係に大切ではないかと考えました。

附属滝井病院精神神経科学講座で展開されているリエゾン精神医学に注目しました。Liaisonとはフランス語であり、西洋料理でソースやスープの仕上げに使うつなぎのこと。つなぎを加えることにより口当たりがなめらかとなります。たとえば生クリーム、バターなどの総称です。医療の面では、いろいろな診療科の医師・スタッフと精神科の医師が協力して行う医療です。患者さんの不安や苦悩、うつ状態を除くのが目的です。2010年、附属滝井病院では、リエゾン精神医学



外来に掲示されている循環器科内分分泌代謝内科・河野啓子講師による書

を積極的に導入しようと行動しています。リエゾンの意味である連携と協同作業により精神科医が救命センターに配置され、その他診療科では要請があれば精神科医が日々介入している。そして、不安・恐れ・抑うつから解放し、ゆたかな人生と実りのある社会復帰を目指しています。さらに、小児科では「こころとからだの発達支援外来」、心療内科では「ストレス外来」、精神科では「認知症外来」を行っています。

高度先進医療の推進と実践はもちろん重要ですが、その後、待ち受けている服薬コンプライアンスの向上などにつながる正しい病識と服薬指導、管理栄養士による食事指導、運動療法士によるリハビリテーション、医療ソーシャルワーカーの役割などがきわめて重要であることに異論はないと思います。しかし、その成否は患者さんの意識、精神状態を十分把握した上で成されるものと考えます。すなわち、急性期医療から亜急性期医療、慢性期医療のなかで、精神科医の積極的介入と心理療法士のカウンセリングを行うことがあらゆる専門医が目指す医療効果を実現するために重要と考えています。



## 消化器がん・肝がんの診断と治療テーマに

## 肝疾患センターが市民公開講座

平成22年度市民公開講座(第29回MWS研究会・肝センター共催)が9月4日(土)附属滝井病院6階講堂で開催されました。消化器がん・肝がんの診断と治療をテーマに附属滝井病院消化器肝臓内科・鉢峰大作助教が「ここまで進んだ内視鏡検査と治療」、同放射線科・米虫敦助教が「ここまで進んだ肝がんの診断と治療」、附属枚方病院消化器肝臓内科・段原直行助教が「ここまで進んだ抗がん剤治療」と題し講演しました。講師のわかりやすい説明に受講者は熱心に聞き入っていました。猛暑の影響か出席者が32名と少なかったのは残念でしたが、会場から多くの質問があり、充実した内容の公開講座となりました。

附属滝井病院としては、このような機会に、一人でも多くの市民が出席し、がんについて理解を深めて頂ければと考えています。肝センター教育支援部門の今後の計画は、部門長の是枝ちづ講師を中心に11月6日(土)に第9回肝臓病教室(開催済み)、来年1月29日(土)に医師向けセミナーを企画しています。

## 3病院がクリニカルパス大会

8月6日(金)午後5時30分から附属3病院によるクリニカルパス大会が開催されました。滝井病院、枚方病院、香里病院から合わせて約130名の参加があり、南館臨床講堂と枚方13階講堂との2会場を中継して3演題の発

表がありました。活発な意見交換ができ、パスの円滑な運営活用に活かせる大会となりました。一般演題名は以下の3題です。

- I.「香里病院パスの現状について」(香里病院)
- II.「心臓カテーテル検査におけるクリニカルパス」(附属滝井病院)
- III.「前立腺生検パス」(附属枚方病院)

## 病 院

## 附属滝井病院

院内見学も真剣そのもの

フィリピンEPA看護師候補研修生が病院見学

## 懇親会では子育てなど共通の話題

今年も海外技術者研修協会(AOTS)からの依頼で、フィリピンEPA看護師候補研修生23名が9月27日(月)午後2時から附属滝井病院を見学しました。昨年に引き続き2回目の施設見学です。受入れ事業のなかで今年初めて、日本の国家資格を取得した外国人看護師3名が誕生し、そのうち1名がフィリピン人研修生でした。今回、研修生の平均年齢は32歳、カナダや中近東などでの海外就労経験者も多く、自国に小さな子供を残している人もいました。

懇親会では、両国の労働状況や子育て支援、看護師の配置数など看護職員に関わる身近な事が話題となりました。印象的だったのは、夜勤業務や仕事に対する配偶者の理解についての質問に「看護の仕事が大好き、夫の協力は当然」と速答した姿に一人の女性としての自立と自信を感じたことです。大阪府は就労先受入機関数が最も多く、日本語の難しさやコミュニケーションに悩む声に、附属滝井病院の看護師からは「共に働きましょう」と精一杯のメールを送っていました。(EPA；経済連携協定)



消火器での初期消火訓練

## 4E病棟で出火、検証消防訓練

## 5分以内で避難完了、消防も高評価

万一の備えと院内防火意識の高揚を図るため10月13日(水)午後3時30分から附属滝井病院の4E病棟で消防訓練が実施されました。

夜間に4E病棟湯沸室から出火との想定での検証消防訓練で、参加したのは、看護師ら職員37名。訓練には、守口消防署員6名が立会い、消火活動や避難・誘導活動、連絡・通報などを視察。訓練終了後、守口消防署員から限界避難時間は12分以内で、今回の検証消防訓練では全員避難完了に要した時間が5分以内であり、訓練全体が良好であったとの評価がありました。

## 香 里 病 院

女性専用病棟が7階にオープン

## 好評「安心して治療に専念できる」

男性の目を気にしないで治療をうけられる病棟があったら…。こんな女性の要望に応えた「女性専用病棟」が7F病棟です。当院では、9月16日(木)に病棟を開き、200床のフル稼働体制になりました。

病棟階の最上階の7階にあり、ベッド数は50床で、個室・副室・4人部屋で構成されています。病棟はバラのイメージでピンクに統一し、病室のドアやカーテンなど柔らかなピンク系の色を使用。女性が落ち着いて過ごせるよう工夫してあります。

現在、主に婦人科、乳腺外科、内科の女性患者が入院しておられます。「安心して治療に専念できる」など入院中の女性患者さんから好評を得ています。



バラをあしらったネームプレート

## 病 院

## 香里病院

## 診療科の充実図る香里病院 特殊外来を次々と開設

香里病院では、10月に「スキンケア外来」を、11月には「ペースメーカー外来」を開設したのを手始めに、12月には「禁煙外来」を設けます。地域住民のニーズに応えるべく特殊外来の充実を図り、良質で最善の医療を提供します。

以下は、3つの特殊外来の概要です。

## スキンケア外来

10月25日(月)からスキンケア外来を開設しています。年内は毎月第2、第4月曜日の午前9時から12時まで2階の外科外来9診で行っています。予約制ですが、患者さんの数の増加によっては年明けから午後もオープンする予定です。対象となるはストーマ(人工肛門)を有する患者さんで、排便のストーマだけでなく尿路系のストーマを有する方も受け入れます。

一般には「ストーマ外来」として知られていますが、患者さんの中には自分が人工肛門をもっていることを他人に知られたくない人もおられ、病院内では「スキンケア外来」の名称で対応します。

## 11月からペースメーカー外来

11月から第1・第3土曜日にペースメーカー外来を開設しています。現在、わが国にはペースメーカーを装着された患者さんは約40万人おられ、関西医科大学では附属枚方病院循環器外科を中心にペースメーカー治療が行われています。しかしながら同科では心臓血管手術件数の増加により、約400名の患者を抱えるペースメーカー外来の維持が困難になり、このたび同外来を

香里病院へ移行する運びとなりました。併せて旧香里病院でペースメーカー移植術を受けられた患者さんの多くが、新しい香里病院でのフォローを希望して戻って来られました。当初はペースメーカーの定期チェックを行う外来を運営し、徐々にペースメーカージェネレーター(電池)交換術、新規植え込み術と業務を拡大して行く予定です。関西医科大学附属3病院の機能分担に貢献できるよう、また香里病院に通院していただく患者さんのニーズに応えるよう体制を整えていきます。

## 12月から禁煙外来

最近では公共施設以外でも禁煙と記されている場所が増加し、バスや電車のみならずタクシーなどでも禁煙車が多くなってきています。またタバコの値上がりにより、多くの愛煙家たちにも禁煙の波は大きな流れとなって押し寄せてきています。

そこで、香里病院では開院時より敷地内禁煙を掲げていますが、来月12月から内科に「禁煙外来」を開設し、禁煙の手助けをします。診察は、毎週火曜日の午後(完全予約制)で呼吸器専門医の尾形誠助教が担当します。愛煙家の皆様、この機会に新しい香里病院で尾形助教指導のもと、禁煙を決意してみても、いかがですか。

## 患者さんに対しアンケート調査を実施

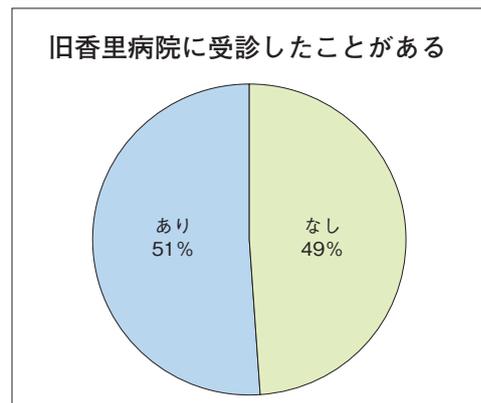
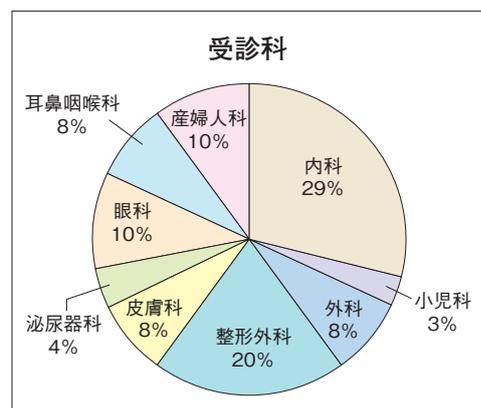
## 受診科は内科、整形で約5割

香里病院では、9月と10月に患者アンケート調査を実施しました。今回、取り上げる10月18(月)と19(火)の両日行われた結果です。回収件数は、435件。

年齢層は、70代が最も多く31%、次いで60代28%と60代以上が約6割を占めています。50代13%、40代12%、30代8%の順になっています。小児科対象の10歳未満は2%、10代1%でした。

受診科(右上グラフ)をみると内科29%、整形外科20%、眼科・婦人科が各10%、外科・皮膚科・耳鼻咽喉科が各8%となっています。「旧香里病院に受診したことがありますか」(右下グラフ)については、旧香里受診者が51%、初めての方が49%と半々の割合でした。「香里病院がオープンしたことを知った媒体は」については、京阪香里園駅看板25%、関西医大附属病院配布パンフレット23%、病院周辺の横断幕等16%、新聞折込広告11%、電車内吊広告と地域新聞(リビング)がそれぞれ9%、新聞広告4%の順。

上記以外にも1.施設・設備・情報提供に関して 2.身だしなみ等について-の調査が行われています。その中で、当院のホームページをご覧になった方に「4大変満足」「3一応満足」「2やや不満」「1不満」の4段階評価結果は、満足30%、一応満足53%合わせて8割を超えました。



## 卒後臨床研修センター

### 平成23年度マッチング結果

平成23年春卒業予定の医学生と研修医受け入れ病院の両方の希望をコンピュータで突き合わせるマッチングの結果が10月28日(木)発表されました。本学のマッチング結果は、次のとおりです。

附属枚方病院プログラム 定員40名  
40名(本学出身者32名)

附属枚方病院小児科重点プログラム 定員2名  
2名(本学出身者1名)

同産婦人科重点プログラム 定員2名  
0名(本学出席者0名)

附属滝井病院プログラム 定員9名  
9名(本学出身者9名)

なお、産婦人科重点プログラムの定員については二次募集を行っています。

### 医学教育指導医ワークショップ 臨床教授ら34名が活発な議論

大阪医科大学と本学との連携プログラムである「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム」(文部科学省補助事業:大学教育充実のための



戦略的大学連携支援プログラム)の一環として、平成22年度医学教育指導医ワークショップは、昨年に引き続き同大学との共催により9月25日(土)、26日(日)の両日、スペースアルファ神戸で開催されました。

今回で2回目となるワークショップは、高知医療再生機構理事長の倉本秋先生をはじめ、関門医療センター副院長の林弘人先生、東京大学附属病院総合研修センター長の北村聖先生を招き、大阪医科大学と本学の学外臨床教授を中心に学内外から34名の参加のもと、医学生の学外実習及び臨床研修医の研修に対する教育指導を理解し、医学教育の実地体制を上げるため、招聘者による講演と活発な議論が行われました。

### 初期臨床研修医 今年度2回目の説明会に5年生を含め112名が参加

平成23年度及び24年度の初期臨床研修医を募集するための、今年度第2回臨床研修合同説明会が9月11日(土)午後3時から、リーガロイヤルホテル(大阪)において開催されました。今回は来春の医師国家試験受験予定者だけでなく、5年生をも対象として行いました。

参加者は学外が6年生8名、5年生14名、学内は6年生24名、5年生66名の合計112名であり、山下敏夫理事長・学長をはじめ今村洋二附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長、高山康夫香里病院長の挨拶の後、本学の研修プログラムについて金子一成副センター長から、クリニカル・シミュレーションラボについて同ラボ松田公志室長からそれぞれ説明がありました。また済生会泉尾病院の小西正人副院長から泉尾病院の紹介や研

修内容の説明があった他、現役の研修医からは体験談が語られました。

その後、各科から指導する立場の先生方が加わり懇親会が行われ、参加者は個別に質問するなど盛会裏に終了しました。



5年生も参加した第2回臨床研修合同説明会

### 後期臨床研修医募集 初めての診療科合同の説明会を開催

ブース形式の科別説明会



後期臨床研修医募集のため、各診療科合同による説明会が、平成22年8月14日(土)午後3時30分から附属枚方病院13階の講堂及び合同カンファレンスルームを主会場に開催されました。

今回の説明会は初めての試みでしたが、初期研修中の学外9名、学内11名の研修医の参加がありました。全体説明会では、山下敏夫理事長・学長及びキャリア形成支援部門長の澤田敏副学長から話があり、ブース形式の科別説明会では21診療科が参加、それぞれの科の担当者が科の特徴など内容を詳しく説明、自分の進むべき科の選択とあって参加者は興味深く熱心に耳を傾けていました。

## 「JOY!フェス」～広げよう 友情の輪～テーマに

# 活気にあふれた学校祭

「JOY!フェス」～広げよう友情の輪～をテーマに、2年ぶりに学校祭が開催されました。初日の10月1日(金)は教養部キャンパス(牧野)で球技大会、2日(土)は本校(高殿)で「バザー」「健康相談」「車椅子体験」といったコーナーや模擬店など様々な催しが行われました。昨年は、新型インフルエンザの影響を受け中止となりましたが、その無念さを晴らすかのように活気に溢れ、特に初日の球技大会は凄まじいばかりの迫力のある試合が展開されていました。日頃はおとなしい男子学生による学年対抗バスケの試合では、体育館全体に応援の歓声が響き渡り、若い力を思う存分発散した1日となっていました。

各競技の結果は、「バレーボール優勝1年B組、ドッジボール優勝1年A組、バスケットボール1年男子勝利、総合優勝1年A組」。教職員の投票による「応援頑張った賞」は2年A組、「Tシャツデザイン賞」も2年A組に渡されました。

翌日の健康相談や模擬店、バザーやお茶席などの催しでは、1昨年に比べて地域の人々の来校は少なかったが、学生のダンスや外部からの「ライブ演奏」には、沢山の人が集まり楽しい雰囲気を味わっていました。また、バザーの売れ行きもまずまずで、模擬店は完売を目指し閉店ギリギリまで営業、「収益の一部をユニ

セフに寄付することができました」と運営委員は喜びを語っていました。=写真は、講堂で開催されたライブの様子



## オープンキャンパスに255名

本年度のオープンキャンパスが、7月30日(金)・8月3日(火)・8月10日(火)の3回、総勢255名参加のもと本校第6教室において開催されました。

当日は、担当教員の挨拶に始まり、パワーポイントによるカリキュラムや学生生活、入学試験、本校の奨学金制度等の説明が行われ、質疑応答の後、施設見学が行われました。また、希望者には午後から附属枚方病院の施設見学も行われ、3回で73名の参加者がありました。

## 投稿

### 「災害訓練を体験して」

31期生1年A組 星原 昌代

今回、初めてこのような大規模で本格的な災害訓練に参加した。私は、腹部に大けがを負い、意識がもうろうとした患者役であった。いざ訓練が始まると、建物の中に救急隊員の方々が無線連絡をとりながら、私を含め被災している患者役たちをすばやく建物の外に連れ出した。そして救護テントで身体状態を確認・応急処置をし、各病院へ搬送などを行った。わたしは意識がない患者役だったので、目を開けることができず、耳で周辺の様子を観察していた。その中で気が付いたのは、災害派遣医療チーム、DMATの方たちの活躍であった。彼らは、互いに連携し非常にすばやく患者の措置を行っていた。

DMATとは、2005年より災害拠点病院などを対象にできた災害派遣医療チームのことを指す。医師・看護師・救急救命士・薬剤師などで構成され、大規模災害や事故現場などに、おおむね48時間以内に駆けつけ、現場で医療活動ができる機動性を持った、専門的な訓練を受けたチームのことである。声だけでもその彼らの活躍ぶりというのが分かった。忙しいながらもきびきびと仕事をされている様子は、平日頃から訓練をされているのであろう、ということが垣間見えた。イン

パクト期といわれる、災害発生期の際、救出救助、救急医療が行う事柄を3Tsと言う。このTは、①検索・救助・救護活動(treatment)②患者の選別(triage)③生存者の病院搬送・後方病院への転送(transportation)のことである。

私は、まさにこの3Tsを体験した。このDMATは各病院、地域で2005年以降に結成され、関西ではJR福知山線脱線事故の際本格的に活躍し、それ以降大型災害が起こった際は非常に活躍されている。災害現場において、いかに彼らの存在が重要であるかが分かった。

「災害は忘れた頃にやってくる」とよく言う。DMATのように災害時にすぐ活動できる医療チームを作っておくのはもちろんのこと他にも災害の準備を怠ってはいけない。それは、施設での食料・水などの備蓄や災害計画を立てておくこと、また災害に備えた訓練などを行っておくことだ。災害は起こらなければもちろんこしたことはないが、海に囲まれた地震多発国である日本は自然災害の脅威にもさらされ、また人為災害に見舞われる可能性もある。将来看護師を志す私たちも、平日頃から災害発生の可能性に備え、自分たちに何ができるか考え、また準備を怠らないようにしたい。

## 大学情報センター

## 無料で受講できます パソコン講習会に行こう

大学情報センター学術部では、学生及び教職員を対象に、毎年、定期的に講習会を実施しています。今年の後期講習会は、現在開催中ですが、随時申込を受付けしています。今回は、枚方と滝井の両地区で、WordとExcelにゆっくり時間を掛けて講習を行います。無料で受講できるこの機会を活かしてスキルアップしませんか。皆さんの参加をお待ちしています。

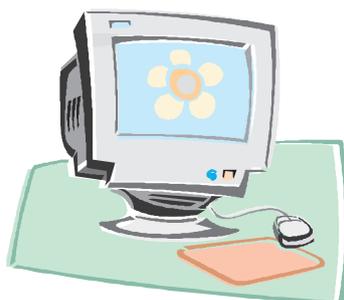
- ・枚方地区：Excel 2003、PowerPoint 2003を中心とした講習会、定員14名
  - ・滝井地区：Excel 2007、PowerPoint 2007を中心とした講習会、定員11名
- 講習会の日程、内容、申込み状況については、  
「<http://www.tnoc.kmu.ac.jp/>」にアクセスして「パソコン講習会」をご覧ください。

## 平成22年度後期・パソコン講習会（枚方地区）

講習内容	開催日	曜日・時間	場 所
Windows基本操作（1回）	10月12日～10月14日	火・木曜日 午後5時30分～7時40分 (休日による振替あり)	情報ライブラリー室 (附属枚方病院1階)
Word 2003（6回）	10月19日～11月25日		
Excel 2003（8回）	11月30日～2月17日		
PowerPoint 2003（4回） (ポスター作成を含む)	2月22日～3月17日		

## 平成22年度後期・パソコン講習会（滝井地区）

講習内容	開催日	曜日・時間	場 所
Windows基本操作（1回）	10月13日～10月15日	水・金曜日 午後6時～8時30分 (休日による振替あり)	医学情報処理室 (大学1号館) (附属図書館内4階)
Word 2007（6回）	10月20日～11月26日		
Excel 2007（10回）	12月1日～2月25日		
PowerPoint 2007（3回）	3月2日～3月18日		
ポスター作成（1回）	3月23日～3月25日		



## キャンパス ニュース

### 大学祭(霜月祭) 今年のテーマは「Message」

2010大学祭(霜月祭)は、10月29日(金)～10月31日(日)の3日間、教養部の牧野キャンパスで開催されました。今年のテーマ「Message」には、「伝言・ことづけ」の意味があり、一人ひとりの思いを言葉で、形で大学祭を通じて発信していきたいとしています。

本番の30日、31日の2日間は、台風の影響もあり、あいにくの小雨交じりの天候となりましたが、医学生やOB教職員、近隣住民らが催しを楽しんでいました。

30日は、ビンゴ大会で大いに盛り上がり、31日は、屋外ステージでゲストによるマジック、最後に講堂ライブが行われ、クライマックスを迎えました。

体育館では、医学博(展示、健康チェック等)、バザー、頭蓋骨展示、原爆展、2号館前の中庭では体育会クラブを主にした模擬店を開店し、昼時には賑わっていました。



屋外ステージでは、マジックショー

### 第62回西医体 個人の陸上・水泳などで好成績

今年で62回を迎えた西日本医科学学生総合体育大会(代表主管校：名古屋大学)が7月30日(金)から8月16日(月)にかけて開催され、3月に実施済みのスキーと合わせ、参加44校、21競技で熱戦が繰り広げられました。

本学は、14競技に参加、総合成績は28位、種目別の成績は以下のとおりです。

#### 西医体成績

種	目	個人氏名	順位
陸上競技	女子総合	—	6位
	女子100mハードル	二宮 智慧	3位
	女子400mハードル	吉田 知紘	3位
	女子砲丸投	宮田 真友子	2位
水 泳	男子100mバタフライ	久次米 佑樹	2位
	男子200mバタフライ	久次米 佑樹	6位
	男子200m個人メドレー	愛甲 一樹	6位
	男子800mリレー	—	6位
	女子総合	—	5位
	女子400m自由形	金子 朋加	5位
	女子50mバタフライ	金子 朋加	4位
	女子50mバタフライ	小山 あかね	6位
	女子50m平泳ぎ	仲井 えり	3位
	女子100m平泳ぎ	仲井 えり	2位
女子200mメドレーリレー	—	5位	
空手道	男子個人	宮原 琢真	4位
スキー	リレーノルディック	—	6位
	女子ノルディック3km	関屋 朱音	6位

## 同窓会

## 須藤 昭子氏の出版図書紹介

広報Vol.8に須藤昭子氏（17回生）が社会貢献支援団体より表彰を受けられた記事が掲載されたが、その後間もなく須藤氏の活動の地であるハイチに大地震が起り、氏は日本滞在のため被災を免れたが、活動拠点は壊滅的な打撃を受けた。現状が判らないまま復興に心を痛めておられた須藤氏であったが、山下敏夫学長の呼びかけによる全学挙げての募金、同窓会の支援金がいち早く同氏に贈呈された。地震を機にハイチの記事がマスコミに取り上げられ同時に現地で医療支援の活動中の修道女であり女性医師としての活躍が話題となった。須藤氏は皆様への感謝の中にハイチへ戻り、現在は復興への一歩を踏み出しているとのこと。この度ハイチへの想いを綴った図書が出版された。書籍の内容を紹介しご購入をお願いします。

## 「ハイチ 復興への祈り」

## 80歳の国際支援

著 者 須藤 昭子

発行所 (株)岩波書店 ブックレット編集部

定 価 本体500円＋税

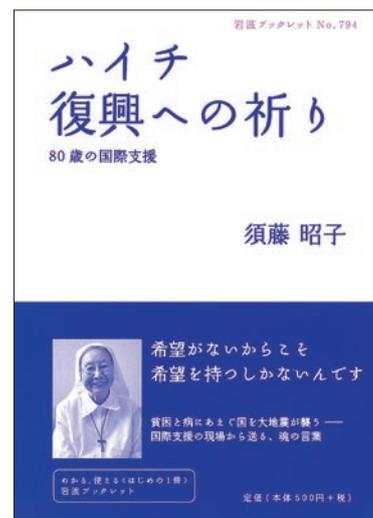
**内容概略** 筆者は83歳、クリスト・ロア宣教修道女会修道女、医師 大阪女子高等医学専門学校(現関西医科大学)卒、1976年からハイチでの医療支援に携わる。戦中戦後の学生生活を経て医師となり、信仰の道に

入り修道女になるまでの生い立ち。ハイチとの出会い、ゼロから始まった医療支援に助けられての現地での活躍、明るい現地人との交流の模様、次第に改善されていく医療事情ではあるが、度重なる政変のため身の危険に曝されることもあったが、隣人への愛が現地に留まらせる。

貧困による栄養失調、感染症による死亡の観点からも、ハイチの人々が自分たちで国を良くするために農業と植林事業が不可欠と考え、市民グループの後押しをし、さらに農業学校を建てるべく交渉し土地の確保もできた矢先の大地震であった。

壊滅的打撃を受けた現地を視察（NHKの「クローズアップ現代」2010年5月24日放映）、尚めげることなく情熱を燃やしつづけている。ハイチが自立できることに希望を持って、天国で休暇をとるまで神様との共同作業に大忙しとのことである。

美濃口 知代（16回生）



## 関西医科大学同窓会研究助成のご案内

関西医科大学同窓会では、学術・研究振興、教育・研修などを助成する下記の制度があります。平成23年度の募集は来年1月末に予定しています。詳細は同窓会誌「おとづれ」、ホームページ等をご参照ください。

1. 関西医科大学同窓会50周年記念研究助成「加多乃賞」
2. 関西医科大学同窓会「佐々木千枝子(ささきちえこ)賞」
3. 関西医科大学同窓会「森本園子(もりもと そのこ)賞」  
(1) 森本賞 (2) 森本医療功労賞
4. 関西医科大学同窓会「北西壽子(きたにしとしこ)賞」
5. 関西医科大学「櫻根啓子(さくらねひろこ)賞」  
(1) 研究論文 (2) 国外学会発表  
(3) 国外臨床実習
6. 関西医科大学同窓会「藤原登美子(ふじわら とみこ)賞」
7. 関西医科大学同窓会「塩崎安子(しおざき やすこ)賞」
8. 関西医科大学同窓会「和田喜代子(わだきよこ)賞」  
(1) 和田喜代子賞  
(2) 和田喜代子優秀業績賞(論文又は著書)  
(3) 和田喜代子奨励賞
9. 関西医科大学同窓会「丹家雛子(たんけひなこ)賞」  
(1) 丹家雛子賞 (2) 丹家雛子医療奨励賞  
(3) 丹家雛子交付奨学金

## 平成23年関西医科大学同窓会新年会のご案内

京都支部(春秋会) 創立75周年祝賀会を同時開催

日 時：平成23年1月15日(土)午後5時30分～ 場 所：リーガロイヤルホテル京都

担 当：京都支部 会 費：22,000円

新春記念講演：「関西医科大学の創設史と建学の精神“慈仁心鏡”をめぐって」

関西医科大学元学長・関西医科大学名誉教授 田代 裕先生

※ご出席をお待ちいたしています。

## メディア情報

## 教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。  
(平成22年8月1日～10月31日)

関西医科大学	毎日新聞 8月2日(月)	奨学金制度や臨床研修制度の内容についての記事や、医師国家試験合格者の地元や大学病院に残る割合、地元の高校出身者の割合が載っており、本学のデータも掲載されています。
附属枚方病院	週刊ダイヤモンド 8月14・21日合併号	『都道府県別頼れる病院』に附属枚方病院が掲載されました。
山田 妃沙子 氏 (精神保健福祉士)	産経新聞夕刊 9月10日(金)	大阪府が効果的な支援や自殺防止に結びつけるため、今年度から府内4カ所の救命救急センターに精神保健福祉士(PSW)を配置し、自殺未遂者の実態調査に乗り出したという記事の中で、附属滝井病院で4月から高度救命救急センターにPSWを配置し、精神科医やPSWらでつくる自殺予防チームを立ち上げ、自殺防止対策の精力的な取り組みが行われているという記事が掲載されました。
池原 進 教授 (幹細胞異常症学) 李 銘 講師 (幹細胞異常症学)	毎日新聞(関東版) 9月13日(月)	肥満など生活習慣の乱れで発症する「2型糖尿病」を、骨髄と胸腺の同時移植で治療する動物実験に、本学の池原進教授、李銘講師〔共同研究講座(大塚製薬株式会社)幹細胞異常症学〕らが成功したという記事が掲載されました。
齋藤 貴徳 准教授 (整形外科)	毎日新聞 10月25日(月)～ 10月29日(金)	『あなたの処方せん』というコーナーで、「胸郭出口症候群」の症状や検査方法、治療方法など、患者さんや齋藤准教授のお話などを交えて連載(全5回)されました。
伊藤 誠二 教授 (医化学) 権 雅憲 教授 (外科学) 海堀 昌樹 講師 (外科学)	日経産業新聞 10月29日(金)	外科手術後の傷口の痛みを和らげるゲル状の鎮痛剤を開発したという内容の記事が掲載されました。ゼラチン質に染み込ませた薬が1週間ほどかけて徐々に放出され、鎮静効果が続くことをラットで確認したという内容です。

## メディア情報お待ちしております

教職員の方々がメディアに登場された場合に掲載させていただきます。このコーナーは、皆様からの情報提供によって構成されます。テレビ出演が予定されている時は、前もって右記の情報連絡先までお願いします。

なお、このメディア情報欄に紹介するのは、朝日、産経、

日経、毎日、読売の5大紙およびNHK・毎日・朝日・関西・読売の各テレビ局、および主要な月刊誌、週刊誌等に取り上げられたもの等に限定させていただきます。

## 情報連絡先

総務部広報課 電話 06-6993-9672(内線 2138)

e-mail: kmuinfo@takii.kmu.ac.jp



## 「侍史」「机下」使い方 意味を知ってから正しく使おう

日本語の使い方、間違っていないですか。「侍史」「机下」を使うなら、意味を知って正しく使しましょう。救急医学科・中谷壽男教授からこんなメールが広報課に寄せられました。

「侍史」「机下」を宛名に加えることは、医療関係者の中で盛んに行われています。これは、私の手紙を高貴なお方に差し上げる場合に、「直接に差し上げるのは恐れ多い」ということで、へり下って、「その高貴なお方の傍らに侍(はべ)っている書生(侍史)に送らせて下さい」、あるいは、「その方の机の下にでも置いて下さい」と言う意味で、侍史や机下という宛名を付加します。すなわち、高貴なお方に対して、身分の低い人として侍史、あるいは卑しい場所として机下という言葉

を用いるわけですから、これに御をつけて、御侍史や御机下とするのは誤りであり、また失礼にも当たることになります。このように、机下や侍史は手紙に付けて、直接に差し上げるのを恐れ多いとして用いた言葉です。

最近ではメールで、直接に相手に届くわけですが、そのメールにも「侍史」と言う言葉を付けて送られてくることがしばしば見受けられます。これは、杓子定規に受け取れば「あなたの侍史(書生、秘書)に宛てたメールをあなたに送るので、あなたから渡して欲しい」と言うことになります。大変失礼な事になってしまうわけです。ましてや、メールで「御侍史」と書いてあれば…。

## お知らせ

## 関西医科大学雑誌

Journal of Kansai Medical University

## 62巻から生まれ変わります

論文投稿する意義を有するよう、関西医大雑誌を改良したい！。こんな願いが叶うことになりました。62巻(2010年冬)から生まれ変わります。(10月12日の教授会で承認されました。)内容は、以下の通りです。

1. 関西医科大学のオフィシャルジャーナルとして発刊します。  
ただし、同窓生・地域医師会の方々の投稿も認めます。教養部紀要との合体を見込んでいます。
2. 国際的に閲覧されるJ-STAGE掲載のオンラインジャーナルになります。  
カラー図版も追加コストなく掲載できます。  
年1回、オンデマンド印刷で冊子体を少数部数印刷します。
3. 新しいスタイルのフルオープンアクセスの学術雑誌になります。  
印刷・発行・郵送にかかる費用を低減化できます。大学からの「情報公開」に役立ちます。
4. 各学術論文は、学内外の専門家3名の査読審査を受けることとなります。  
査読付きのため、学位論文としても活用できます。学内の審査委員には「教員評価」でポイントを付与します。迅速審査制度をもうけ、急ぐ結果がほしい場合に対応できます。
5. 投稿規定が整備されます。  
倫理的・社会的・法的側面をクリアした論文を掲載する旨が記載された投稿規定がホームページに公開されます。
6. 将来のインパクトファクター(IF)取得を目指しています。  
当面は、短くても英文抄録付きであれば和文論文も認めますが、将来的には和文論文の場合の併記英文の比率を上げていき、IFの取得審査に耐えるようにします。

## 「理事長室 Web目安箱」を設置

このほど学内専用サイト内に「理事長室Web目安箱」を設置しました。これは、教職員の皆さまから大学運営に関する建設的な提案をメールにて寄せてもらおうというものです。

理事長が皆様の提案に直接目を通します。大学運営について改善事項の提案等をお待ちしています。

入力フォームのURLは、<http://cgil.tnoc.kmu.ac.jp/meyasubako/>です。イントラネットのトップページ(<http://www.tnoc.kmu.ac.jp/>)から入力ホームに入ることができます。

## 「関西医科大学 広報」年4回発行

## 原稿、ご意見お寄せください

「広報」は、関西医科大学と教職員、学生、同窓生、保護者を結ぶコミュニケーションツールの一つです。年4回、季刊号として発行します。皆様からの記事の提供、企画、ご意見などありましたら、広報課まで連絡よろしくお願い致します。

## 送付先変更の場合はお知らせを

「広報」の送付先の変更が生じた方は、官製はがきまたはファックス、E-mailにて郵便番号・住所・氏名等を記入の上、広報課までお知らせください。

## ホームページの公開は各部署で

本学のホームページは、大学、枚方・滝井・香里の3病院、それに附属看護専門学校、卒後臨床研修センター合わせて6サイトあります。今年5月にリニューアル公開して半年を過ぎ、11月4日からは、各部署単位で責任をもって公開してもらうことになりました。

各部署の管理責任者・担当責任者は、「何を掲載すべきか」「新しい情報に更新されているか」常に心配りする必要があります。あなたのところは、ひと月以上、何も変わっていないのでは。毎日チェックしましょう。

## 編集後記

暑い夏が終わったと思ったら、いきなり冬です。秋は、短し。紅葉を楽しむ時間もなかった。最近、目にしたお気に入りの俳句があります。「酒やめようかどの本能と遊ぼうか」—金子兜太作。5・7・5の短い言葉に込められた一句、本人は「理解は、それぞれ自由、分からなくても結構」とか。

さて、Vol.11はトップにバーモント大学との学術交流協定を取り上げました。「国外臨床実習の歴史と展望—国際化を見据えて」と題した教務部長の原稿は、本学の派遣先大学や病院の歴史がよくわかり、将来、設置される国際交流センターの話にも及んでいます。枚方新学舎整備の準備作業の記事は、写真で紹介、実際、目で確認してもらおうとの趣向です。その他、オープンキャンパスや今年は、インフルエンザの影響もなく、無事行われた大学祭などを掲載しています。(M.N)

## 関西医科大学広報 Vol.11

発行 学校法人 関西医科大学  
編集 総務部 広報課  
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15  
TEL 06-6992-1001(代表)  
FAX 06-6993-5221  
<http://www.kmu.ac.jp/>  
E-mail [kmuinfo@takii.kmu.ac.jp](mailto:kmuinfo@takii.kmu.ac.jp)  
平成22年11月25日(木)発行